

八代神社の神宝の中に「鉄獅嚙文金銅象嵌鍬形」(てっしかみもんこんどうぞうがんくわがた)がかみもんこんどうぞうがんくわがた」と呼ばれるお宝があります。

鍬形といっても、畑を耕す「鍬」でも昆虫の「クワガタ」でもありません。これは武士がかぶる兜の正面を飾る一対の角状の立物のことで、その原形は古代の鍬にあるといわれています。

「獅嚙」とは獅子の頭を模倣化した装飾のことで、八代神社のものは金によるメッキで獅子の文様が施されており、

全国的にも一つしかない大変貴重なものとして、国の重要文化財に指定されています。

これは平安時代のもので、およそ1,000年以上も昔に製作されたものです。

なぜ、このような貴重なものが奉納されているのでしょうか？

神島には、その昔「御醜醐天皇」の8人の王子が上陸したという言い伝えがあります。そして、その8人の王子を祭る



鉄獅嚙文金銅象嵌鍬形(てっしかみもんこんどうぞうがんくわがた) 2本の角の部分の部分は失われ、鍬形台だけが現存しています。角が平行して立つ古い形であり、長野市清水寺のものとともに、日本最古といわれています。

神島八代神社神宝の謎④ 神島に高貴な武士がいた!? 〜世にも貴重な鍬形〜

鳥羽のお宝 再発見!



vol.14

教育委員会生涯学習課
☎ 1268

王子の塚があったとされており、現在もそのうちのいくつかが残っています。

また、鎌倉時代には天皇家の親王たちが乗った船が、伊勢の海で遭難したという記録が残っていて、その一部の船が流れ着いたとあります。

この貴重な鍬形は、漂着した人たちのお墓に納められたものではないでしょうか。

日本で唯一の大変貴重なものなので、鳥羽の誇る宝としてPRしながらも、大切に保存していくことが求められます。

先日、お父さんと3歳ぐらいの男の子が病院の待合室にいました。

「これなあに?」と何事にも興味を示す男の子は、ボックスの上の公衆電話にも興味を持ち始めました。お父さんが「これはいちだよ。これは、に、さん」と面倒がらず、丁寧に優しく答える姿をほほえましく感じて見ていました。

次の瞬間です。お父さんが一瞬目を離れたすきに、受話器を引っ張ってしまった男の子の上へ、ボックスと電話が倒れてきました。男の子の額、目のふち、鼻、口からは出血し、みるみる腫れてきて、看護師さんに付き添われて診察室に入って行きました。

今までずっと見ていたのに、一瞬のすきに起こった出来事です。その一瞬で事故につながる可能性があります。

大人が少し気を付けることでこの事故防止につながります。例えば、こどもをだっこしているときは、自分の足元に十分注意する、口に物をくわえて歩かせない、ビニール袋やゴム風船などをこどもの手の届くところに置かない、階段を上り下りするときには、こどもの下側を歩くか手をつなぐなど、「うっかり」をなくすことで、「ヒヤッ」とすることが軽減されます。

「まだ小さいから言ってもわからない」「こどもがしたがるので」ではなく、危ないことは大人が教えてあげなくてはなりません。

ときには手が離せない場合もあるかもしれませんが、できるだけこどもが見える位置にいてあげましょう。こどもたちも大人のまなざしに安心して遊ぶことができます。

みんな子育て



子育て広場

だっこでほっと

うっかり!!ヒヤッと!

vol.11

子育て支援センター

☎・FAX 7221